

## 「スノーチップ 冬期間の子どもたちの防寒具」

私は、昭和45年に北海道札幌盲学校に赴任以来、札幌地区で子どもたちの歩行指導などに携わってまいりました。

当時は、まだ雪道の白杖歩行に関する技術なども十分に開発されていませんでした。このため、No.53（下の囲み内容）でお伝えしたように、旭川市や金沢市、豪雪で有名な高田市にも出向いて実験を重ねて研究を進めてまいりました。

この時に、雪道の独特なパターン抽出とともに、子どもたちが使用する防寒具などについても工夫をしてまいりましたので、その内容をお伝えします。

### 1 帽子について

視覚からの情報入手が十分に行えない場合、聴覚や皮膚などからの情報に頼るしかありません。雪道では、自動車の車輪と路面との摩擦で生じる音情報が格段に低下し、車の交通音が得にくい状況が常となります。

降雪時には、雪の吸音効果も付加されさらに得にくい状況になります。

したがって、帽子をかぶらない方が多くの聴覚情報などを得ることができます。帽子をかぶる場合は、耳や頬を覆い隠すフード状のものは避け、聴覚情報が得やすいレシーバー型の物を着用の方が安全性が高まります。

### 2 手袋について

白杖からの情報を手のひらに円滑に伝えるためには、分厚い手袋やボック手袋（親指と他の四指の二つの分かれた手袋）は避け、できるだけ薄い手袋を用いることが必要です。

### 3 靴について

路面変化の情報は足裏から入手します。このため、靴の裏底は滑りにくくかつ足裏情報の得やすい、柔軟な軟質ゴム系の靴裏が良いと思っています。

またスパイク付きの靴も良いのですが、雪がない時はスパイク部分を取り外さなければ、マスキングノイズ（交通音の把握を邪魔する音）を自ら作り出すこととなりますので、路面状況に応じた留意が必要になります。

「ジオム社で販売しているスノーチップ」

